

When 節の位置選択について

—— 中学校英語教科書 ——

山 本 和 之

要 旨

本稿の目的は、when 副詞節が文中で取る位置について、英語教育における教材研究の立場から、中学校英語教科書を対象に考察を行い、概略の指針を現場の先生方に提供することにある。¹ when 副詞節は、現行の中学校英語教科書では中学2年のレベルで導入され、文頭と文末の両位置が可能であることを学習させている。しかし特定の文脈の中で、両位置がいつも同程度に可能なわけではない。when 節の位置についてはその後学校の英語教育で扱われることもなく、各自適当にどちらかの位置に置いているというのが実状であろう。本稿では、when 副詞節の位置選択を左右する要因に焦点を置いて考察を行った。

キーワード：中学校英語教科書 when 副詞節 位置選択 情報構造

1. はじめに

時副詞の位置上の変異は、(1) のような節だけでなく、当然 (2), (3) のような語や句にも該当するが（下線は現筆者）、本稿では when 節に焦点を合わせる。

- (1) a. Sadako was two years old when the atomic bomb was dropped over Hiroshima. C3/30
b. When Ms Sasaki came to my desk, I was writing *tomodachi.* C2/14
- (2) a. What day is it today? H1/49
b. Today I'm here in a big park in Hirosaki. H3/12
- (3) a. Mother Teresa began her work for children in Kolkata in 1948. S2/34
b. In 1950, Mother Teresa started the Missionaries of Charity. S2/36

副詞節を導く従属接続詞は中学校2年で導入されるが、when の場合は、これまで疑問詞とし

て学んできた when が、従属接続詞としても機能するという新しい文法機能の習得となる。² さらに、通常の名詞節や形容詞節と違って、英文を発信するさいに when 節を文頭と文末のどちらの位置に置くかという選択を行わなければならない。副詞節を導く接続詞としては if, because や after, before など大体この時期に導入されるが、中学校英語で一番よく使われるのはこの when である。

2. 位置変異

When 副詞節が取りうる位置は、文末、文頭だけでなく、下例 (3b) が示すように中間位置もあるが、時の副詞節に関して中学段階で習得するのは、文頭位置と文末位置なので、以下の考察ではこの二つの位置に限ることとする。³

- (4) a. When you're ready, we'll go to my parents' place.
 b. We'll go, when you're ready, to my parents' place.
 c. We'll go to my parents' place when you're ready.

When 節の位置に関して、それが主節の前にも後にも来ることは記述されていても、どういう場合にどちらの位置を占めるのか位置選択について述べている文法書や辞書は少ない。文法的に正しいか誤りかの問題ではなく、傾向の問題であることと、それに文脈（前後関係）が関与しているので、当然と言えば当然である。中学校英語教科書では、文頭と文末のどちらに置いてもいいものとして両方の位置を習得させるようにしているが、位置選択についての説明はない。中学校レベルでの英語学習では、両位置が可能であることが分かれば、それで十分なので、当然の扱いと言えよう。なお、目を通した英語教科書全体としては、前置の when 節と後置の when 節の使われている度合いに大きな差はなかった。

3. 同時生起と接続生起

時の副詞節を導く when が主節との同時性を表すといっても、主節の事象の生起と従属節の事象の生起が重なる場合（同時読み）だけでなく、二つの事象が時間的に接触して生起し（接続読み）、しばしば一方が他方を引き起こしている場合がある。Declerck (1991, p. 132) は、この後者のような同時性のあり方を sloppy な同時性と呼んでいるが、要するに、人間は引き続いて起きる二つの事態を、ひとくくりにして、同じ時間帯に属するひとつの局面として捉えているのである。このような、近接関係にあるものを一体と捉えるという素地がなければ、メトミーも生

まれてこない。ここで、Declerck (1991, p. 132f.) の挙げている例をいくつか見てみよう。(5) は同時読みとなり、(6) と (7) は接続読みとなる。なお、主節と従属節のうち少なくとも一方が状態ないしは継続相であれば同時読みになる。下記接続読みのうち、(6) では従属節の事態の方が主節の事態に先行するのに対して、(7) では主節の事態の方が従属節の事態に先行している。(5), (6), (7) の間にこのような違いはあるけれども、私達の認知処理はこれらを同じ局面として統合し、when を用いたひとつの言語構造で括っているのである。

- (5) a. He was in America when she died.
 b. You will still be in bed when I take the train.
 c. When he lived in the country, Gerald always had a walk after supper.
- (6) a. When the Iraqis attacked Israel, the Israelis did not retaliate at once.
 b. When the shot was fired, everybody ran out of the bar in panic.
 c. When Joe received a letter, he usually wrote a reply the very same day.
- (7) a. When Tracy went for a stroll, she turned on the burglar alarm.
 b. When Mr Harris made his speech, Bryan introduced him.

接続読みで、主節と when 節のどちらが文頭位置か、ふたつの事象のうちどちらの事象の方が先行事象か、という点で見ると、可能な組合せは次の4組である。

- ① [when 節 (先行事象) + 主節 (後行事象)]
 ② [when 節 (後行事象) + 主節 (先行事象)]
 ③ [主節 (先行事象) + when 節 (後行事象)]
 ④ [主節 (後行事象) + when 節 (先行事象)]

この四つの組合せは、どのような認知処理を表しているのだろうか。まず、主節と when 節に納められているふたつの出来事を、図と地という関係で見ると、when 節は、主節の出来事がいつ生起するか (生起したか) を示すいわば背景的情報 (地) を提示しており、主節 (図) のいわば支えとしての役割を果たしている。それ故に、主節に対して従の地位に置かれるものであり、言語化に際して、時を示す副詞節として主節に従属する地位を与えられている。次に時間の流れという点から見てみると、①または④のように、先に起きたことに依存して (それを背景にして) 後から起きたことを述べるというのは理解しやすいが、②または③のように、あとから起きることに依存して (それを背景にして) 先行の事象を図として述べるというのは、時間の推移に逆らった捉え方で、理解上容易であるとは言えない。中学校レベルでは出てこないが、主節を完了形にして主節の方が先行する事象であることを示すのは (e. g. When she came, he had already left.)、解釈上の間違いや負担を避けるためであろう。一方①と④は、どちらも先行事象

が背景 (when 節) となっていて分かりやすい。そのうち①は、出来事の起きた順に二つの節を並べたものであり、時間的順序の点で理解しやすい。他方、①の並べ方を逆にした④も、図と地の関係に基づいて背景の情報 (when 節) を従の位置、すなわち、従要素 (副詞) が一般的に占める文末という位置に置いた、理解しやすい配列である。実際のところ、取り上げた中学校英語教科書に出てくる接続読みの用例は、①と④の用例であって、②と③は出てこない。ここでまず①と④の例を教科書からいくつか挙げておく。先ほどの例 (7) のような、ここで述べたことと矛盾すると思われる例については、そのあとで説明する。

接続読み

組合せ① [when 節 (先行事象) + 主節 (後行事象)]

- (8) When a bike fell on Kumi, people complained. H2/52
- (9) When I told that to my host father, he laughed and said, "That sounds like a real time-outs! In America time-outs are usually inside." H3/71
- (10) When the game is over, we are going to have a party. S2/31
- (11) When I met my elderly neighbor the other day, she asked me, "Where are you going?" S3/26
- (12) When I saw her face, I was very surprised. S3/37
- (13) When the light turned green, I helped her with her bag, and we walked across the busy street. S3/47
- (14) When we finished playing, everyone gave us a big hand. S3/75

組合せ④ [主節 (後行事象) + when 節 (先行事象)]

- (15) People complained when a bike fell on a little girl (Ishii Kumi) near the station. H2/52
- (16) What did Kelly have to do when she missed her curfew? H3/74
- (17) One day, I found that her hair was falling out. I said to her, "I'll make a red ribbon for you when your hair gets better." S3/36
- (18) Here many people smile when our eyes meet. T3/22

例 (12)、(18) は、同時読みではないかと思われるかもしれないが、when 節と主節との間には因果関係があり、例えば (18) では、目が合うことによって笑みが引き起こされるのであるから、接続読みと考えてよい。

ところで、先ほど挙げた Declerck からの例 (7) は、組合せ②の例で、本来なら意味理解上好ましくないはずである。しかし実際には、(7) の例は意味を取るのに何ら問題はない。私はその理由は、(7) の例は接続読みではなくて同時読みの拡大された解釈を行っているからだと考えている。つまり、「ハリス氏が演説をする時」と言うとき、その範囲の中に司会の部分も繰り込まれた状態で把握されていると思う。演説、スピーチに司会は付き物である。同様に、「散歩に出かける時」とは、厳密に家を離れてから以降のことではなくて、家を出る前の用意段階も含んでいるのではないだろうか。そうだとすれば、(7) の when 節は時間的幅を持つことになり、その幅の中で主節の行為が行われるのであるから、同時読みと同じ認知処理が行われることになる。教科書からの次のような例でも、when 節は旭川に行ってからそこに滞在している間という時間的幅を持っていて、同時読みを行っていると思われる。

- (19) In Asahikawa, I like winter better than summer. When I went there last year, I enjoyed skiing a lot. S2/79

ここで、中学校英語教科書から同時読みの例を挙げておく。接続読みの例はすでに挙げた。同時読みの使用例の方が接続読みの例よりもはるかに多いので、少し多めに挙げておく。同時読みなので、主節と when 節が表す二つの事象の間の時間的順序は問題にならない。但し、後ほど述べるように、位置選択のほかの要因が働くため、いつもどちらでも選べるわけではない。

同時読み [when 節+主節]

- (20)=(1b) When Ms Sasaki came to my desk, I was writing *tomodachi*. C2/14
 (21) When Daichi came to my house, I was cooking dinner. C/88
 (22) When I was in elementary school, I went to a shamisen school and practiced hard. H3/15
 (23) Well, when we cook meat in Brazil, we usually don't use sugar. And we don't eat raw eggs. S2/20
 (24) When it rains, I usually go to school by bus. S2/21
 (25) When you have a new bag, I can say, "I like your bag." S2/40
 (26) When I was in the U.S., I learned about the school on the Web. S3/16
 (27) When Aki called me, I was sleeping. T2/12
 (28) When you aren't hungry, the answer is always "no" in English. T2/13
 (29) When she was still very young, she wanted to give her life to God. T2/90
 (30) When I was in the hospital last year, my mother gave me his book. T3/40

同時読み [主節+ when 節]

- (31) But I was very happy when I wrote *tomodachi*. C2/14
- (32) ... he was killed by a bear when he was camping in Kamchatka in 1996. H3/114
- (33) But you were not afraid when spring became summer, or when summer became fall.
H3/81
- (34) I lived in Nagano when I was young. S2/21
- (35) She lived in Canada for seven years when she was young. S2/32
- (36) My father took this picture when I was seven. S2/44
- (37) I watched Disney movies when I was a small child. S3/32
- (38) He says that he loved the song when he listened to it at a Japanese restaurant in
Buenos Aires. S3/87
- (39) I had a funny experience when I stayed in U. S. T2/12
- (40) I was sleeping when Aki called me. T2/12
- (41) I saw Ken when I was going to the library yesterday. T2/15
- (42) It was too big for me when I made it. But now, it fits. T2/83
- (43) Agnes went to Calcutta, India and became a nun when she was 19 years old. T2/90

以上、主節と when 節の並び方を、主として時間軸に視点を置いてみてきた。しかし主節と when 節という言葉要素の配列には、英語の文が持つ情報構造からの要請、文頭の時副詞がもつ機能上の特性、主節の文形式といった、かなり複雑な要因が絡んでいる。さらに、話し手（書き手）の好みもある。以下、そのような要因による主節と when 節の位置関係を考察する。

4. 情報構造からの要請

4.1. 情報の新旧・フォーカス

英語の持つ、「旧情報を前に新情報を後に」、「焦点を受ける要素は文末に」という文要素配列基準は、when 節と主節のどちらを文頭に、どちらを文末に置くかという相対的順序に関わりを持つ。「軽い要素を前に重たい要素を後に」という基準は、節形式の場合は必然的に長く重たくなるので、名詞句の場合と同じように考えることはできない。

Swan (2005, p. 18f.) は、時の副詞について、大抵は文末位置にくるが、その副詞がメッセージの主たる焦点でないときは文頭位置も普通である、と述べている。つまり、時の副詞が文頭位置にあるときはその副詞が文の main focus を受けていない場合であり、これに対して文

末位置に置かれているときは、文の main focus を受けている場合も受けてない場合もある、ということになる。これは、焦点を受ける重要な情報は文末に来る (end-focus) という英語の一般的特徴に、文末位置を好む副詞としての特徴を重ね合わせたものである。Swan の記述は副詞 (句) について述べたものであるが、同書 (p. 73f.) の as, when, while を扱ったところで、“As-, when- and while-clauses can go at the beginning or end of sentences, but as-clauses usually introduce less important information, and most often go at the beginning.” と述べている (下線は現筆者による)。つまり、これは、副詞節の場合も情報上重要でないものが前置される傾向をもつことを述べており、旧情報を前に、新情報を後に置くという英語の一般的特徴は維持されている。Givón (1993, p. 313ff.) も前置された副詞節 (句) には、先行部分との関連性 (anaphoric link) が生じることを指摘している。換言すれば、前置 when 節が旧情報を担っているということである。Carter & McCarthy (2006, p. 561) は、時の副詞節について、主節の前にも後にも置くことができるが、主節の後、つまり文末位置の方が “more neutral position” であると述べている。これは、Swan (2005, p. 18f.) の説明と本質的には一致している。文末は時の副詞の本来の場所である。以下、情報構造からの要因が関与していると思われる例をいくつか取り上げてみよう。

次の対話で、Cathy の答の主節部分 I started running は、その前の問を見れば分かるように、旧情報であり、情報として大切なのは when 節の部分である。従って when 節が焦点を受けるので、文末に置かれている (焦点化された when 節は文頭には置けない)。

(44) *Interviewer*: May I see that gold medal? It's beautiful. When did you start running?

Cathy: I started running when I was a child. S3/70

次例 (45) も同様で、主節の、品物を使用される (It is used) という陳述内容は当然のことなので (品物は何かに使われるために作られる)、新情報として大切なのは when 節の方になる。従って when 節が焦点化されるので、それを文頭に置くことはできない。主節の主語が it (旧情報) であることにも注意していただきたい。その次の例 (46) においても、相手に伝えたい情報 (新情報) は when 節の方で文末位置を取っている。

(45) This is called a “yunomi.” It is used when you drink tea. H3/10

(46) I asked my host father about time-outs. He said that time-outs are used when small children behave badly or get too excited. H3/71

以下の例 (47), (48) では、6 歳 (小学 1 年生)、12 歳 (小学 6 年生) のときに自分が好きだったことよくやっていたことを、例にならってグループで話し合わせるところである。焦点があるのは、好きだったことよくやっていたことを述べる主節なので、その主節を文末位置に置く方が自然である。

(47) When I was 6 years old, I liked Ampanman. T2/14

(48) When I was 12 years old, I was a baseball fan. T2/14

次例 (49) でも、when 節は旧情報で (カナダにいたことは先行部分から分かる)、言いたいことは主節の部分である。もし逆に when 節が焦点化されているのであったら、when 節が文末に来ることになる。

(49) When did Mike go to Canada?

Last month. When he was there, he stayed with his grandparents. S2/20

S2/21 の Let's Try のところで次のような練習がある。

●博が公園に着いたとき友だちが何をしていたか、例にならって言いましょう。

<上の指示文の下に、次の例文と友だちがやっていることの絵がいくつか示されている>

(例) When Hiroshi got to the park, Aya was eating lunch under a tree.

例にならって言うのは、「博が公園に着いたとき友だちは何をしていましたか」という問の答である。⁴つまり、新情報として焦点を担うのは、友だち何をやっているかを述べる主節で、when 節の方には焦点はない。従って when 節前置、主節後置の語順となる。

次例でも、強調したいことは、主節に述べられていることであり、焦点を受ける主節が文末に置かれている。

(50) She ran the race as fast as she could and finished first! She felt happy. When she ran her victory lap, she had the flag of Australia with her. She also had the flag of the Aborigines. It is the flag that shows the identity of the Aborigines. S3/67

4.2. 情報の流れを整える <話題の受け継ぎ・型の受け継ぎ>

物語は、同一の話題を追って話を進行させる。話題は旧情報として受け継がれるので、主節の

主語がその話題であれば、主節の主語が旧情報として文頭の話題位置を占めることになる。従って when 節は文末位置になる。そのような例をひとつ挙げておく (Sadako/she を話題として話が進んでいる)。

(51) Have you heard about Sasaki Sadako?

Sadako was two years old when the atomic bomb was dropped over Hiroshima. She suddenly became sick at the age of twelve. She had hope. She believed, . . . C3/30

私達は情報を提示していくときに、日常言語でも特定の形式を踏んで提示することがある。次例 (52) は、いろんな人が難民にどんな手助けをしているかを、同じような形式で (形式を踏襲して) 述べたものである。最後の文の when 節は、この位置で形式的にも意味的にも力を発揮できる。さらに、難民を助けるというのは既述のこと (旧情報) であり、焦点は refugees when they return to their country の方にあると思われる。

(52) The lives of these refugees are hard, but some people are trying to help them. Some doctors are helping refugees who are sick. Some teachers are working in schools for refugee children who cannot go to school. Some people are working to bring these refugees food and safe water. And some people are helping these refugees when they return to their homes. C3/80

5. 時局面の設定と物語の展開

私達は同じ時を二度と経験することはできない。私達の日々の生活が時間に強く規制されながら、時の流れに乗って刻々と過去を形成していくのであれば、私達がこの時を出来事が生起する舞台として捉えるのは当然のことである。空間的な場面に対してこれを時面と呼ぶことにする。⁵ この時面を開く (設定する) という行為は、英語にどのような構造として反映されるだろうか。時面が出来事を支配する (自分の領域に入れる) ためには、時面を表す副詞句 (節) を文頭におき、それ以降の主部と述部 (副詞節の場合は主節) を副詞句 (節) のスコープ (scope) に入れないといけない。前置された時の副詞句はトピックになる、文頭の従属節は left-branching になる、といった記述もこれと同じことを述べていると思われる。⁶

文頭に置かれ、時面を表示する典型的な表現は、in 1930 や yesterday morning のような時を直接示す副詞句であろう。when 節は、このような時自体を表す表現ではないが、時を示すという点では同じで、時面を開くという機能は同じように持っている。文頭の when 節で設定され

た時舞台は、その場面だけで終わることもあれば、劇で Act, Scene が展開していくように、次々と時面が開いて物語が進行していくこともある。

以下、時面を開く when 節の例をいくつか見てみよう。まず単純な例からいくと、下例 (53) では、ルミとの出会いの局面が開かれ、つぎつぎとルミについての話が展開していく (引用は冒頭部のみ)。(54) では、時間的的局面と空間的的局面を同時に開けている感じである。

(53) When I first met Rumi, she was sitting alone on the seashore. She was looking toward the sea. She was a cute little girl. S3/34 (ルミについての話が更に展開していく)

(54) When Mr. Kimura, a Christian priest, visited Baghdad in the spring of 2003, a group of boys came up to him and asked in English, "Do you know Nakata?" They were talking about a Japanese soccer star. S3/87

次の 3 例では、はじめに副詞句で大枠の時面が開き、ついで when 節で絞りこんだ小枠の時面が開いている。最後の例では、間に空間場面も入って時面が開いている。

(55) Last summer, when I was waiting for a friend in front of the station, I met my elderly neighbor. She had a big bag with her, and she was going to walk across the street. When the light turned green, I helped her with her bag, and we walked across the busy street together. S3/47

(56) Emi: One day, when I was talking to my friend about my house in Japan, she was confused.

Jim: What did you say?

Emi: I said, "I live in a small mansion." T2/12

(57) One day, in Denver, when we were singing on the stage, a fly got into my mouth! I was surprised and I stopped singing. S2/88

人は、時とともに発展していく事象や、互いに関連を持ちながら生起する出来事の連なりに興味を持つ。これは、時の副詞句 (節) によって或る時の場面を開き、順次そのあとの時面を設定しながら、出来事を述べていくという形になる。次例は Stevie Wonder の生まれてからの歩みを、時を追って述べたもので、文頭の時の副詞句・副詞節によって順次時面が開き、そこでの出来事が述べられていく。時の副詞句・副詞節には下線を引いておいた。なお、最初の時の副詞句 in 1950 は、was born の補部をなす副詞句なので、これを前置することはできない。

- (58) Stevie was born in 1950. He soon lost his eyesight. When he was a little boy, Stevie often enjoyed listening to music on the radio. He used spoons to keep rhythm with the music. He became very good at playing the drums, the piano and so on. People who listened to his music were amazed.

When he was thirteen years old, Steve made his first album. This made him a big star. After that, he had hit after hit. Stevie continued to make a lot of songs which touched people around the world.

In 1973, Stevie had a car accident and almost died. This experience changed his life. He decided to help others who have difficulties. He began to work for them through his music. <話はさらに続く> T3/44-45

次の例は、空所に語を入れて、レイチェル・カーソンの生涯についてのレポートを完成させる練習問題である。出生の場所で幕が開き、その後は時系列にそって生涯を述べていく。(59)には空所に語を入れ完成させたものを示しておく(下線は現筆者)。

- (59) Carson was born on a farm. When she was a child, she liked to write. Later she wanted to be a writer or a scientist. She became both.

In the 1950s few people worried about the danger of farm chemicals. In 1962 she finished her book *Silent Spring*. She had cancer while she was writing it. But she worked very hard. H3/62

6. 時面、場面の対比

通常文末に置かれる副詞句を文頭の置くと、目立ちが与えられるので、対比的な意味が生じる。次の例(60)では、時の節(When I came to Japan)と場所句(in my country)の間に対比が感じられる。前者は時の節ではあるが、特定の場所を設定しているので、他の場所との対比が成立する。(61)の例も同様である。ついでながら、例(62)では、主節部分が対比的に述べられているため、when 節は後置されている。

- (60) *Anna*: When I came to Japan, I was surprised to see many plastic bottles and cartons.

Aki: Really?

Anna: In my country, we usually use glass bottles and reuse them many times.

Aki: I get it! Reusing is to use things many times! T2/47,48

(61) When you want to order in Japanese restaurants, you usually say, “sumimasen,” in a loud voice. But in America, we just make eye contact or raise our hand. H3/42

(62) “We’re all afraid of things we don’t know,” Daniel said. “But you were not afraid when spring became summer, or when summer became fall. Changes are natural.” H3/81

7. 主節の構文との関係

主節のとり文の形が疑問文や命令文のような有標 (marked) な形であるときは、調べた英語教科書で見ると、when 節は後置されるのが主流である。その文の持つ有標性をなるべく早く提示するための配慮ではないかと考える。換言すれば、英語の構成素構造における Head-First という配列規則になるべく合わせようという配慮があるのかもしれない。用例数も少ないので、今後の検討事項である。

<主節が疑問形>

(63) What did Kelly have to do when she missed her curfew? H3/74

(64) What did Freddie see for the first time when he fell? H3/84

(65) What was Yasuo doing when his father came home? S2/21

(66) Then what do you usually say when you meet someone? S3/27

(67) What did Rumi’s parents say when they left the island? S3/38

<主節が命令形 (原形)>

(68) She said, “Sit up straight when you write.” C2/14

(69) My teacher said, “Smile when you sign ‘happy’. Then people will understand you better.” C3/71

(70) Walk when we don’t have to ride our bikes. H2/53

(71) Be careful when we park our bikes. H2/53

(70) と (71) は、上では別個の番号を付したが、このふたつの文は、We can do two things という文の下に 1、2 として述べられたもので、when 節の主語からも分かるように、意味の上からは通常の命令文ではないが、主節の動詞の形 (原形) からここに入れておいた。

なお、教科書の次例 (72) では、主節が命令形ではあるが when 節が文頭に置かれている。

(72) I'll tell you how to get to my house. When you get off at the station, go straight and turn right at the first corner. Walk two blocks and then turn left. You can find my house between a bank and a frit store. S3/65

しかしこの例では、when 節は接続読みの先行事象を表す。したがって when 節の出来事が起きてから、命令文に示されている行動をとることになる。もし、命令文を文頭に出すと、聞き手にとっては、どの地点から直進して右折するのか分からないまま（通常は目の前の道をさすが）、when 節を聞いてはじめてどこから直進し右折するのか理解することになる。したがってこの場合は、when 節を先行させる方が指示が分かりやすい。なお、when 節が先行する命令文や疑問文は、以下の辞書例やことわざ例に見られるように、特殊な例ではない。⁷

(73) When you come to Baker Street, turn right.

(74) When fortune smiles, embrace her.

(75) When an ass kicks you, never tell it.

(76) When Adam delved and Eve span, who was then a gentleman?

(77) When all is gone, and nothing left, what avails the dagger with the dudgeon-heft?

8. 終わりに

時の when 副詞節の位置選択については、まだまだ考察すべき問題があるが、さらに調査資料の範囲を広げる必要がある。例えば、主節が I was sad (happy) のような感情表現の場合は、when 節が後置されることが多いが（感情の原因が後続する I'm happy to meet you. のような構文との関連があると思われる）、例が少ないので、調査の範囲を広げて次回報告したい。

When 節には、次の例 (78) のような、先行する名詞句にかかる、従って前置が不可能な when 節や、これも前置ができない、(79) のようないわゆる追叙的な when 節もあるが、本稿での考察は中学校英語教科書で普通に出てくる when 節を対象にした。

(78) *Yuki*: Harry is so cool, isn't he?

A young man: I think so too. Is this your first visit to the U. K.?

Yuki: Yes. I've never been there before. I feel like Harry when he goes off to learn magic. S3/59

(79) Yesterday evening I was sitting in the living room, watching TV, when suddenly a

policeman came in. Declerck (1999:151)

When 節には時を示すというよりは、if のような他の意味の語句で言い換えられるような場合があるが、本稿では位置の問題だけを取り上げている。位置の問題も、特にどちらかの位置にしなければならない要因がなければ、発話者個人の好みやくせといったものに依存して配列が決まることになるので、明確な結果が出るわけではない。大体の配列傾向をつかむことがこの考察の目的である。この位置変異の問題の締めくくりとしては、日本人の英語学習者と母国語話者との間に、位置変異の傾向に違いが見られるかどうかの検証を行いたい。両方の位置が可能と習ったあとで、発話に際して日本の英語学習者はどういう選択を行っているのであろうか。

注

1. 今回使用した中学校英語教科書は、*New Crown* (三省堂 2008)、*New Horizon* (東京書籍 2006)、*Sunshine* (開隆堂 2008)、*Total English* (学校図書 2010) の各 1, 2, 3 である。用例のあとの C3/30, S2/34 等は、*New Crown* 3 の 30 頁、*Sunshine* 2 の 34 頁を表す。
2. 前置詞用法から接続詞用法へと習得を進める after や before の場合に比べて、when の場合の疑問詞用法から接続詞用法への方が機能上の格差が大きい。
3. (4) の用例は Quirk et al. (1985, p. 1037) からの引用である。
4. どんな問の答として適切かという問との対応関係については、Morgan (1975, p. 445) を参照のこと。
5. 時の副詞句の time-setting、scene-setting の機能については、Biber (1999, p. 804)、Quirk et al. (1985, p. 566) に言及がある。
6. Declerck (1991, p. 222)、Quirk et al. (1985, p. 1037)、Biber (1999, p. 804) を参照のこと。
7. 例 (73) は *Longman Advanced American Dictionary* (2007)、*when*² conj. からで、他はことわざである。

引用文献

- Biber, D. et al. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Longman.
- Carter, R. & McCarthy, M. 2006. *Cambridge Grammar of English*. Cambridge University Press.
- Declerck, R. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Kaitakusha.
- Givón, T. 1993. *English Grammar II*. John Benjamins Publishing Company.
- Morgan, R. 1975. "Some remarks on the nature of sentences" in Grossman, R. E et al. (eds.), *Papers from the Paraception on Functionalism*. Chicago Linguistic Society.
- Quirk, R. et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- Swan, M. 2005. *Practical English Usage*. Oxford University Press.